



7月を振り返って

7月は10日から31日まで、集中的に個人面接演習を実施してきました。参加した皆さんにはお伝えしたのですが、**面接は試験ではありません。面接官が、人間的に魅力があると感じる人物、職場で一緒に働いてみたいと感じる人物を選ぶ「選考」です。**ですから受験する皆さんは、他の受験生との差別化を図るためにも、自分の優位性をしっかりとアピールしてください。皆さんにアピールしてほしいのは、以下の項目です。（最低でも5個以上はアピールしてください）

- ★自分の魅力、★自分の可能性、★自分の教師としての適性、★育てたい生徒像、★理想の学校像、
- ★課題解決に立ち向かう意欲、★逆境を克服したストーリー、★中高生への指導経験、★将来の夢
- ★教師にこだわる理由、★明るさ、★爽やかさ、★若さ、★健康、★笑顔、★元気

これらを表現するために重要なのが、

☆表情（明るさ） ☆声のトーン（元気さ） ☆姿勢の良さ（爽やかさ） ☆メリハリのある行動（若さ） です特別なことではありません。意識すればできることです。絶対に受け身になることなく、堂々と面接官にアピールしてください。「面接官をプッシュしてやるぞ！」というくらいの心構えでちょうどいいです。

8月の予定

1日、2日は面接官経験者である元都立高校の校長2名を講師にお招きして、最終の個人面接演習（リアル面接）を実施します。本番と同じモードで一人30分間実施します。当日はスーツ着用で参加してください。今年度の採用選考を受験予定の方は、必ずこの直前演習に参加して、本番の面接の雰囲気を感じてから選考に臨むようにしてください。最も早い日程の神奈川県は9日から、横浜市・川崎市は10日、埼玉県・千葉県・東京都は19日から二次選考が実施されます。今まで蓄えてきた力を存分に発揮して合格を勝ち取ってくれることを願っています。コンディショニングに気をつけていきましょう。

自信をもって選考に臨もう！

今年度から、各自治体で採用選考の前倒しが始まりました。ご存じのように昨今の教職の人気の無さ、応募倍率の低下に焦りを感じている自治体の採用担当者は、選考を前倒しにすることで、優秀な人材が民間に流出することを阻止しようとしています。しかし私は応募倍率の低下については、抜本的な改善がなされない教員の働き方改革の停滞や、職務の削減、適切な人員配置がなされない実態に対する、若者たちの反発が原因だと考えています。ですから採用選考が少しくらい早まったところで、現状は何も変わらないか、むしろ倍率の低下がさらに進む可能性があると考えられています。しかしこれから選考に臨む皆さんは、倍率など気にする必要はありません。自分が教師を志した原点を、もう一度深く心に刻んでください。小金井教職課程センター主催の論文添削、及び面接演習を受けてきた皆さんは、二次選考を突破できるだけの実力を十分に身に付けてきました。皆さんには全員合格のチャンスがあります。「自分はこれだけの取り組みをやってきたんだ！」という自信をもって選考に臨んでください。朗報を待っています。

面接の前に確認しておこう！

面接選考直前、特に前日は何をすべきかと問われれば、「コンディショニング」しかありません。翌日をベストコンディションで迎えるため、早めに寝ることが一番です。それ以外の準備は、

1. 前日準備で心を落ち着かせましょう。

○服装の最終チェックをしておきましょう。スーツにシワはないか、ワイシャツの襟は汚れていないか、もう一度点検しておきましょう。シャツにアイロンをかけたり、靴を磨いたりすると、結構気分が落ち着いたりするのでやる価値があります。試験に臨む際の皆さんの最大の武器は、**若さと清潔感**なのであります。

2. 履歴書など書類の内容の再確認をしておこう。

○試験前日、寝る前にチェックしなくてはいけないこと。それは、提出した面接票やエントリーシートに目を通すことです（コピーは取っておきましょう）。特に**志望動機、自己PRで何を書いたかを確認**してください。面接では履歴書の内容と違ったことを言うと突っ込まれます。しっかり頭に入れておきましょう。

3. 教職への意欲を再確認しておこう。

○これらのチェックが終わったら、最後にもう一度原点に立ち戻りましょう。**「自分が教師になりたいと決めた理由は何か」**ということを明確に意識してください。さらに、「教師になるために一生懸命勉強してきた。このことにより、**自分は成長したはずだ。では、どこが成長したのだろうか**」と思いを巡らしてください。**教職への強い意志を確認し、成長した自分を見つめることで、自信が湧いてくるはず**です。

4. 人の話はしっかりと聞きましょう。

○集団面接や集団討議のときは、他の受験者の発言をよく聞くことに集中するとよいです。もちろんしっかりとうなずきながら「傾聴」してください。「何を話したらよいか」ばかりを考えると、あまりいい回答が浮かばないものです。ところが**人の話に集中すると、逆に話したい言葉が浮かんでくる**ものなのです。

5. ハンカチは上着のポケットに入れましょう。

○夏場なので面接中に汗をかくてしまうこともあるでしょう。緊張感で汗が出てきてしまうこともあるでしょう。こういう場合は、早めにハンカチを出して拭いてしまいましょう。ズボンやパンツのポケットに入れておくと出すのに手間が掛かるので、上着のポケットにしまっておくとよいです。さっと取り出すと見栄えもよいです。汗を拭く際は、「失礼します」と一言断ってからにしましょう。

6. 面接官は優しい？

○受験者の報告を見ると、「面接官は笑顔で迎えてくれた」「終始笑顔だった」「答えが出ないときにフォローしてくれた」など意外にも「優しかった」というケースが多いです。**面接を必要以上に怖がらなくてもいい**ということです。「何を聞かれるのだろうか」と受け身になってはだめです。自己PRの場であることを意識して、面接官をPUSHしてください。（自分がいかに教師に向いているかアピールしてください）

7. 退出前にお礼を言いましょ。

○面接官から「これで面接を終わります」と言われたら、**立ち上がって「ありがとうございました」と言いましょ**。その一言で、印象よく面接を終えることができます。口ごもりながら、中途半端なお辞儀をして、口の中でぼそぼそと「どうも……」は避けたいです。（印象台無しです）

8. 面接は「楽しい」

○正直なところ、面接を「重い」と感じる人がほとんどでしょう。面接官の多くは、年配のベテラン校長です。当然初対面で話が弾むわけもなく、合否が掛かった真剣勝負の場であるから、緊張しないわけがないです。それでも**面接の最大のポイントは「笑顔」**です。面接会場に入室して面接官と初めて目が合ったとき、質問に答えるとき、圧迫面接を受けたとき、**「笑顔」は大変有効な武器**となります。面接は「色々な人と出会えて話ができる楽しい機会だ」「自分について聞いてもらえる楽しい時間だ」と思って臨んでください（**マインドセット＝面接は楽しいものだ！**）

教職 TOPICS No.17 授業評価について その 2

授業評価にはいくつかの手法があります。

1つは1時間の授業構成を時間軸でとらえた「時系列評価」です。「事前」「導入」「展開」「まとめ」の各段階で、必要な活動についてどの程度達成できたか評価する手法です。

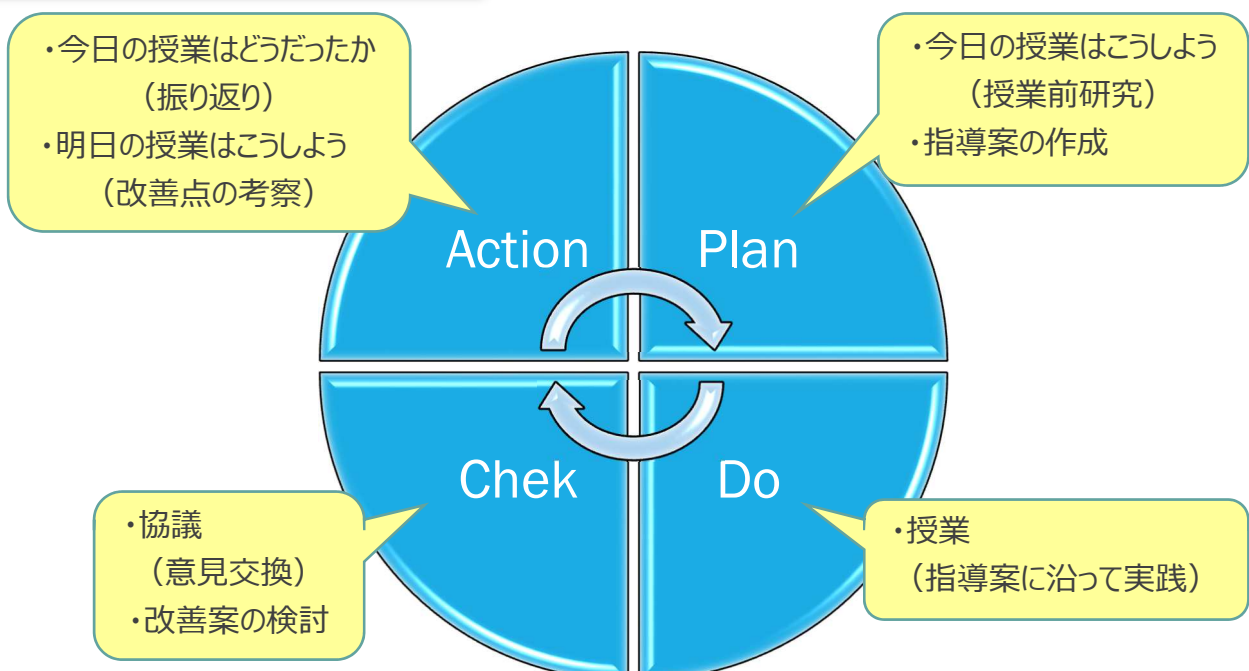
次に「PDCA サイクルによる評価」があります。時系列評価よりももう少し時間軸を長くして、授業前（PLAN）授業（DO）授業後の協議（CHEK）振り返りと次の授業に向けて（ACTION）の4段階で評価する手法で、主に研究授業など大勢に見てもらおう際に使われることが多いです。

さらに授業の要素ごとに細かく評価する手法もあります。それが「授業力の構成要素別評価」です。この評価は授業の構成要素に的を絞って細部を評価する際に使われる手法です。

授業評価の時期と評価項目【時系列評価】

評価の時期	評価項目
事前	生徒の実態に即した指導案であったか。
導入	ねらいに沿った的確な課題の提示であったか。
展開	めあて、狙いの設定は適切であったか。
	適切な指導内容であったか。
	教材は適切であったか。
	生徒の意欲を引き出す発問・声掛けはできていたか。
	生徒同士の活動場面が確保されていたか。
	必要に応じて、個別指導・机間指導はできていたか。
	無理のない進め方、時間配分であったか。
指導方法に、創意工夫はあったか。	
まとめ	ねらいは十分に達成されたか。

【PDCA サイクルによる評価】



授業評価の評価項目【授業力の構成要素（6要素）別】

「授業力」自己診断シート

番号	分類	診断項目	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
1	使命感、熱意、感性	授業改善を目指し、研修に進んで取り組んでいる。	4	3	2	1
2		学習のねらいをすべての児童・生徒に達成させようとしている。	4	3	2	1
3		教材研究を行って授業に臨んでいる。	4	3	2	1
4		ものごとに対する幅広い関心をもっている。	4	3	2	1
5		心と体の調子を整えて授業を行っている。	4	3	2	1
6		明るく前向きに児童・生徒に接している。	4	3	2	1
7		学習にふさわしい環境づくりを心がけている。	4	3	2	1
8	児童・生徒理解	児童・生徒一人一人の学習意欲を把握している。	4	3	2	1
9		児童・生徒一人一人の本時の学習の達成状況を把握しようとしている。	4	3	2	1
10		児童・生徒一人一人の変化を把握しようとしている。	4	3	2	1
11		児童・生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握している。	4	3	2	1
12		児童・生徒一人一人の発達段階、友達関係、家庭状況等を的確に把握している。	4	3	2	1
13		児童・生徒一人一人に気を配り、言葉かけをしている。	4	3	2	1
14		児童・生徒の発言や行動を共感的に受け止めている。	4	3	2	1
15	統率力	児童・生徒の反応や変容に気づき、授業に生かしている。	4	3	2	1
16		学習意欲を高めることを意識して言葉かけをしている。	4	3	2	1
17		基本的な学習ルールを定着させている。	4	3	2	1
18		的確な指示を出して集団を動かしている。	4	3	2	1
19		学習のねらいを明確に示し、学習に見通しをもたせている。	4	3	2	1
20		学習状況に応じて適時・的確な判断を行っている。	4	3	2	1
21		児童・生徒に学習の準備についての的確に指示している。	4	3	2	1
22	指導技術	授業の始めに学習のねらいを児童・生徒に明確に示している。	4	3	2	1
23		個に応じた指導を行っている。	4	3	2	1
24		児童・生徒の主体的な学習を促す工夫を行っている。	4	3	2	1
25		教材・教具を効果的に活用している。	4	3	2	1
26		発問の工夫をしている。	4	3	2	1
27		児童・生徒の反応を生かしながら授業を構成している。	4	3	2	1
28		分かりやすい説明をしている。	4	3	2	1
29	教材解釈、教材開発	効果的な板書をしている。	4	3	2	1
30		授業のまとめを工夫している。	4	3	2	1
31		教科等の専門的知識を深めている。	4	3	2	1
32		日頃から教材に関連する幅広い情報を収集している。	4	3	2	1
33		学習のねらいを明確に把握して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
34		児童・生徒の実態を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
35		学校・地域の特色を考慮して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
36	「指導と評価の計画」の作成・改善	生活との関連を意識して教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
37		児童・生徒に興味・関心をもたせるための教材解釈や教材開発をしている。	4	3	2	1
38		時数、活動内容、学習形態等の指導計画を立てている。	4	3	2	1
39		場面や方法を明確にした評価計画を立てている。	4	3	2	1
40		計画を立てる際に児童・生徒の実態を考慮している。	4	3	2	1
41		計画に基づき、児童・生徒の評価を行っている。	4	3	2	1
42		指導計画が適切であったかを振り返っている。	4	3	2	1
43	改善	評価計画が適切であったかを振り返っている。	4	3	2	1
44		振り返りを基に、問題点を明確にして次の計画に生かしている。	4	3	2	1

※ 6要素については7月号を参照

記入日	年	月	日
氏名			